

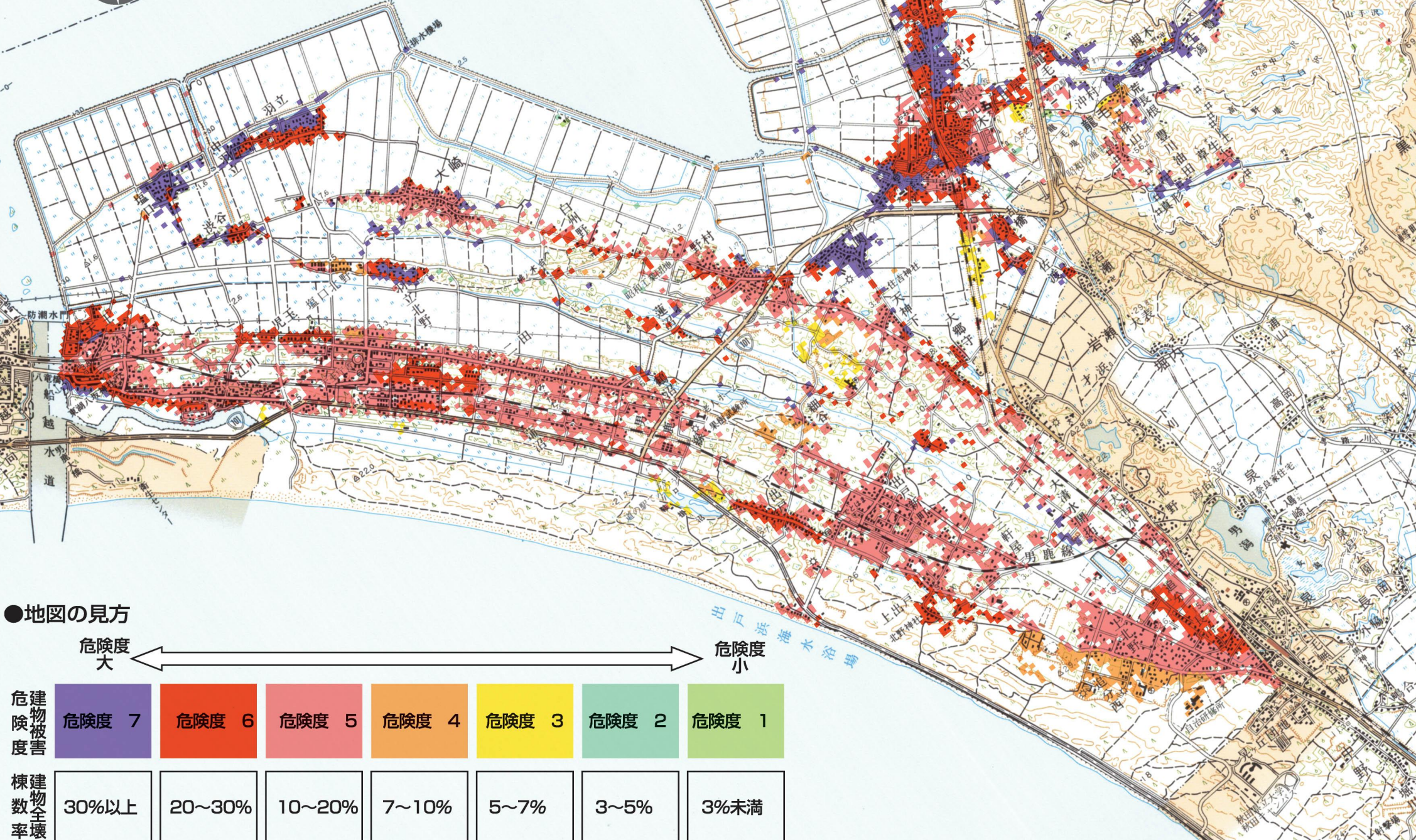
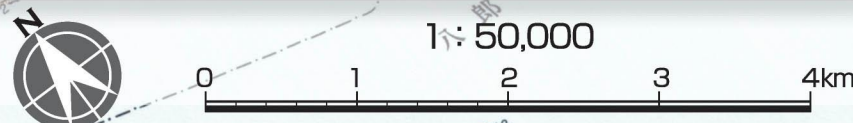
潟上市地震危険度マップは、市民のみなさまがご自宅等の耐震性の確保に関心を持っていただけるよう起こりうる大規模な地震が発生した場合に予想される建物の全壊率の分布を示したものです。

# 大地震 そのときあなたの家は大丈夫？

## 地震危険度マップについて

地震が発生すると様々な被害が発生します。その中でも地震の揺れによって建物が被害を受けると、住居が失われるだけでなく、多くの人命が失われることになります。地震による死亡やケガの原因で最も多いのは、家屋の倒壊や家具の転倒による「窒息・圧死」であり、阪神・淡路大震災での死者の約8割を占めていました。このため、「地震危険度マップ」では地震によって全壊する建物の割合を建物被害危険度として表示しています。

住民みなさんが自宅周辺や通勤・通学路等の揺れやすさや建物被害の危険性を確認し、地震への備えを行うために、このマップをお役立てください。



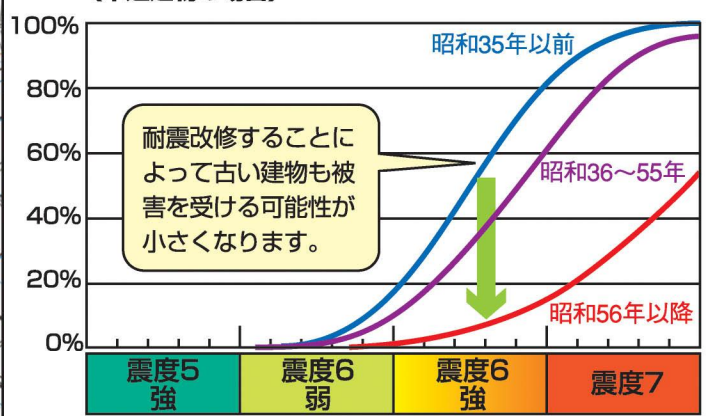
## 地震危険度マップの作成方法について

「地震危険度マップ」は、地震防災マップ作成技術資料（内閣府、平成17年3月）を参考にして、地震によって全壊する建物の割合を建物被害危険度として表示しています。

建物被害危険度は、地震のときに受ける地域の揺れが大きいほど、また、建築年代の古い建物が多いほど高くなります。「揺れやすさマップ」の震度分布と地域の建物の構造・建築年代分布から、阪神・淡路大震災などの最近の地震時の被害実態をもとに評価を行っています。

古い基準で建てられた建物は新しい基準の建物よりも地震時に被害を受ける可能性が大きいので、適切に耐震性を診断して必要に応じて耐震化工事を行うなど耐震性の確保が防災上重要です。

建築年代別震度と全壊率の関係  
 (木造建物の場合)



●地図の見方

危険度大 ← → 危険度小

建物被害危険度	危険度 7	危険度 6	危険度 5	危険度 4	危険度 3	危険度 2	危険度 1
棟建物全壊率	30%以上	20~30%	10~20%	7~10%	5~7%	3~5%	3%未満

このマップは、国土交通省による平成21年度「住宅・建築物安全ストック形成事業(耐震改修モデル事業)」の補助によって製作されたものです。